

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時より、地域の中の1軒の家をして暮らすことを基盤に考え、「地域と共に」、そして法人の理念でもある「その人らしい生活の継続」を目指し、「地域と共に」とその人らしく」の2つの大きな理念を掲げている。利用者さん自筆の書を置いている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自筆の書がフロアの目のつくところにあるので、常に意識し、職員誰もが心に留めている。町内会の行事への参加やコーポの管理組合の行事等積極的に参加している。大掃除や餅つきをコーポの恒例行事にしたり、運動会や地藏盆へも参加している。町内会の役もしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で話したり、月1回のふれあいサロンで伝えたり、近隣のボランティアの方々へもホームの理念を具体的にお話している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方々や商店街の方とは日常的な挨拶はしている。ふれあいサロンの参加者や久しぶりにお逢いした近所の方などと気軽に立ち話をしている。回覧板や配り物などで出入りも良くある。バレンタインチョコの贈り物も毎年している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・商店街・コーポの管理組合等の役をしたり行事に参加したりしている。特にコーポの方々とは大掃除やお餅つきをしたり、下初音町第5班の住民として地域の行事には積極的に参加している。	

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>開設後数年して、地域に何か還元できることをと、民生委員さん達に相談した結果、月1回のふれあいサロン開始になった。参加メンバーが増えてきて盛況である。特に独居の方には食事も提供しているので好評である。今後も何が出来るか意見を聴いていきたい。</p>	○	<p>ふれあいサロンの場で、権衡についての心配事が出されたので、バイタルチェック等もしていきたい。職員3人態勢も考えていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>利用者の暮らしの質の向上と捉え、また自身の向上の意識付けにもなっている。自己評価の段階で気付きはある野で、課題に向けて改善したり、取り組み方法を変えたり等、前向きではある。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>9月の運営推進会議では論議できる。7月の会議の中で外部評価受診のことは報告する予定である。取り組みについて忌憚のない意見をいただき、サービスの向上に生かしていきたい。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>年に一度だが、地域密着型サービスの事業報告書を持参し、説明している。生活保護の担当ワーカーの定期的訪問もある。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要な利用者には活用できるよう支援をしている。入所後、利用者の1名に保佐人がつかれ、保佐人と連携を取るなかで学んでいる。地域福祉権利擁護事業についてはもう少し学ぶ機会を持ちたい。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の理念として、また、グループホームケアとして、学び、浸透している。職員間でも情報を交換し、常に意識下に置いている。</p>		

グループホームはつね

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	3年半ぶりに新規入所があった。利用に際しては、本人及びご家族に対し、丁寧な説明を行なっている。またその都度都度の疑問点や不安等に対し、納得の行く説明をしている。特に今回のケースは、グループホームからグループホームへの住み替えの方なので、ご家族の疑問点には十分話し合っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等はその都度、受け止め、職員間で共有し解決に努めている。介護相談員の派遣が滞っているので、市のほうへ相談してみたい。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	お小遣いの管理状況をつき1回、報告している。その祭、暮らしぶりも書くようにしている。体調の変化・物品の購入・部屋の模様替え・行事の事前案内等、電話連絡や文書等でのお知らせを行なっている。出来るだけ小まめに報告している。また、GHの機関紙「たたいま」を季刊で発行しお渡ししている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人独自のアンケートを実施した。運営推進会議の席上・或いはサービス担当者会議でも意見や不満をお聞きしている。苦情受付窓口を表示、設置している。出された意見や要望は速やかに運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、3時間の職員会議を設け、サービス内容の検討と共に事業所の運営に関し、様々な意見交換をしている。出された意見や要望は、役責者の会議でも検討され事業所の質の向上に繋げている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に利用者の状況に合わせて、タイムテーブルや業務内容を柔軟に変更して対応している。個々人の体調変化や通院・行事参加等には、その都度、調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年の春は、管理者も含め3名の職員の入れ替わりがあり、馴染みの関係を築かれていた利用者にとってはダメージが大きかった。異動は出来るだけ最小限にする努力はしている。今回は、新規職員がなじみの関係になるまでは、長年いる5名の職員がOJTも兼ね、フォローしている。利用者にも個別に丁寧に説明もしている。	

グループホームはつね

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>各自の望む研修に参加できるようにしたい。また今のうちの現場に必要な知識を得られるよう、小まめな勉強会等をしたい。学んだことが徹底して全員に伝わるような仕組みも必要。(会議での報告はあるが)</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	<p>建築設計上、もう一部屋を増やすことは今のところ出来ないの、出来るだけストレスの発散できる機会を設けていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	<p>本人不在の入所手続きにならないよう、生活形態の大きな変動を最小限のストレスで治まるよう、十分付き添い、想いを傾聴したい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談や見学時には丁寧に対応し、待機者の説明等もした上で他の近隣のサービスの情報もお伝えしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅が近い方は、時々、自宅に戻り、掃除やご近所との付き合いをされていた。現在入所中の方で、入所初日にご家族が泊まれたこともあった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般について様々なことを教えていただいている。人生の先輩として、裁縫の用語や縫い方、季節の行事食の作り方等の情報交換をしている。また利用者同士の関係から、人との付き合い方、社会常識等を身をもって学ぶことがある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは常に、利用者の充実した人生を求めるパートナーとして話し、お付き合いをお願いしている。お互いの立場を理解しながら、より良い関係を築く努力をしている。事業所の運営や他利用者のことも含めて(プライバシーは考慮)お伝えしている。ご家族とは住んでいる場所は違っても生活事態が伝わるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係の情報収集に努めている。利用者自身の想いとご家族の想いとのですり合わせが上手くいき、利用者の生活自体が前向きになられたこともある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅町内でのお付き合いや年賀状での交流、同窓会への参加、旅行のお土産配り等の支援を積極的にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	馴染みの関係の中で、お互い心地良い気持ちで暮らせるよう、その時々で席順や外出のメンバー等には配慮している。お互いの性格や暮らし方の理解を求め、関係で悩んでおられる方の話を聴いたり、共通の話題で皆が話せる機会も作っている。		

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	かつて入所されていた方が近くで独居生活を始められ、行き来が今も続いている。緊急時のための鍵を預かったり、ホームの行事にはお誘いしている。退所者のご家族が文化祭の行事を手伝ってくださることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事席の位置、嗜好品の希望、個別の外出、お誕生日の希望メニュー、入浴の時間、食事の形態等、意向の実施に努めている。意思表示の困難な方には、本人の好みや体調を優先している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	近くの自宅に定期で帰宅し、家の整理を行なっておられる。また、長年馴染んでこられた家具の使用、馴染みの理美容院の利用等、出来るだけ今までの暮らし方を把握し、支援している。		まだご本人やご家族からの聞き取りが十分でないので、聞きとって、今のご本人の理解と暮らしの充実に努めたい。また、思い出の場所にも同行し、話題も共有したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の体調やその時々表情を機敏に把握し、少しでも心地良く過ごせるよう支援している。職員主導にならないよう、有する能力を見極める努力をしている。また、家事等、出来るからといっていつまでも頑張っていたくのではなく、緩急の頃合いを見て、疲れの度合いにも配慮している。		ややもすると身体援助のほうに時間を取られてしまう日もあるので、お一人おひとりに十分係われるとは言い難い。今後も、充実した生活の意味を問いながら支援の方法を考えたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面接時やサービス担当者会議で本人・ご家族の意向を聞いて、それに基づいたケアプラン作成をしている。医療面の支援や終末時のケアについては、サービス担当者会議で医療スタッフと共に確認している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングにより、ケアプランの評価を行なっている。体調変化や心身の状況に応じた見直しも月々で行なっている。		

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録や伝達ノートにより、気づきや情報を共有している。		職員全員による個々のケアプランの共有が不十分である。書式も含め、把握できるよう改善していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族からの希望で毎年、納涼会を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとして、「認知症の人と家族の会」の会員さんが毎週水曜日に、コーポの住人の方が月曜日に来てくださっている。また三味線の方が月1回定期の訪問ボラで。地域の民生委員さんが運営推進会議やふれあいサロンに参加されている。防災訓練は消防分団に協力いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	全員が居宅療養管理指導を受け、適切な指導・アドバイスをいただいている。鍼灸マッサージを受けておられる方もある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として来て頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、かかりつけ医の往診があり、馴染みの関係の中でゆっくり診ていただいている。特変時にも気軽に相談でき、急な往診にも応じてもらっている。ご家族の希望の医療機関に行くこともある(歯科センター)。ご家族と相談しながら専門医を受診している。		

グループホームはつね

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>サービス担当者会議で再度確認していつている。普段の面会時、或いはケアプラン見直し時にも話し合いたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	配慮はしているが、排泄支援の際等、周囲に聞こえていることが多い。さりげない援助を心掛けたい。また、うっかり馴れ馴れしい言葉遣いをしていることもある。	常に意識してケアに取り組みたい。ハード面的にも声が響くため、いっそうの配慮が必要である。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけその時々で相談し、決定をしていただいている。毎日の暮らしの中で、役割分担のように他者と決めておられることや自分の仕事として積極的にされる方もある。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神状態を見極めながら、個々のペースに添った過ごし方をさせていただいている。買い物や散歩は職員側からの働きかけが多いが、問い掛けで希望を話されるので、具体的な過ごし方にはそのように対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい、好みの洋服を着ていただき、理美容院は希望のお店に行っておられる。髪型も希望される。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事を考えたり、利用者の好みの食材・メニューで決定している。下ごしらえ、盛り付け、片付け等一緒に行なっている。同席で食事をすることで作り手の顔も見え、会話も弾み、毎食楽しみにされている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者はおられないが、毎晩、好みのアルコールをたしなまれる方がおられる。日本茶・ジュース等の飲み物も好みのものを用意している。	

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけトイレで排泄したいだけできるよう、排泄チェック表を活用している。サインも見逃さないようにしている。排泄のパターンをつかむ事で、以前の生活で夜間、ポータブルトイレ使用だった方が、ホーム入所後、トイレで排泄されるようになった。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほとんどの方々が毎日入浴されている。体調や気分、個別の外出等、その日によって臨機に対応している。時間も昼間、夕食前、夕食後～と対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調によって、誘導で休憩していただいたり、自身で横になられたり、自室でゆっくり休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人おひとりの役割や出来ることがおおそ決まっているのでお任せし、職員側が用意した楽しみ事などは参加するかしないか選んでいただき、出来るだけその日の過ごし方を組み立てられるよう支援している。		外出の機会が増やせるよう、職員体制も整えたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されておられる方々(2名)には、買物の希望があれば付き添って行っている。社会性の維持の点、また自由になるお金の所持が自信に繋がっているという意味から考えても、大切なことだと職員は認識している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶や買物等に出かけている。2名の方はご家族との外出や外食も月に数回あり、気晴らしをされている。		以前は、毎日散歩に出掛けていたが、回数がめっきり減っている。もう少し外気浴をしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	同窓会への参加や南座観劇、ご家族との遠出、お花見や文化祭、一泊旅行等機会をつくり出かけて楽しんでいただいている。		

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員が掛け、お話ししていただいている。ご家族から職員にかかってきた時も、代わってお声を聴いていただいている。お歳暮・お中元・母の日のプレゼント・お誕生日の贈り物等が届いた時はお礼の電話を入れる。年賀状もやり取りされている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	同窓会のお友達や近所の方などがいつでも自由に訪問されている。自室でお話されたり、フロアで皆と過ごされたりしておられる。お茶やお菓子をお出しし、ゆっくりしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。マニュアルも作成している。日常的に職員は話題にし、「しないケア」に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、どこにも鍵はかけていない。帰宅欲求のある方には一緒に出かけている。職員全員が意識して鍵を掛けないケアの大きさを意識して取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中外へよく出かけられる方には一緒に出かけている。夜間は安眠を妨げないように所在や安全を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手洗い液を口に持っていかれた方があり、目の届かないところに保管し、使用時は一緒に使う支援をしている。鋏や針、包丁はお一人おひとりの力に応じて、見守り等で使用していただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どの方がどのような場面で転倒されるか予測し、再発防止に努めている。一人ひとりの状態をよく把握し、常に心配りしている。誤嚥や窒息時の機敏な対応について学ぶ機会を持ちたい。		

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが、定期的な学習が出来ていない。全ての職員が的確な処置を行なえる自信がない。		定期的に繰り返し学習していきたい。医療関係者の講師依頼も考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に地域の消防分団にご協力いただいて訓練を実施している。夜間想定訓練も行なっている。地域の防災訓練にも参加していた。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時やサービス担当佐会議でお話している。暮らしの中でのリスクはたくさん予測されるが、説明したり相談したりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	表情や動き方、声の調子、顔色、発汗等に機敏に気付き、バイタルチェックをしている。速やかに診療所へ連絡し、往診してもらっている。その時の出勤職員は状態を共有できるように連携をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の把握に努めている。新薬や増薬の場合は特に副作用に注意し、観察している。下剤の量の調整や精神薬の服薬時間は特に意識し、効果や副作用に注意を払っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質多めの食材や水分摂取に配慮し、自然排便を促す努力をしている。ご家族と相談し、専門医受診もしている。散歩も出来るだけ支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ではないが(昼食後が出来ていない)、全員の口腔ケアはしている。歯ブラシの選定ややり方など工夫している。夕食後は義歯を預かり、洗浄している。歯科受診も個別にしている。		

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回、体重測定をして健康管理の目安にしている。退院時、食事制限を言われた方のカロリー摂取については病院の管理栄養士から指導を受けた。水分や食事摂取にムラのある方、体調不良で摂取が減少している方については、チェック表を作成し、意識して必要量の確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。発生時にはそれに基づいて早期消滅に努めた。手洗いの励行や汚染衣類の消毒、器具の清潔保持に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒、毎食後の食器は熱湯処理に努め、食材も新鮮なものを使い切るようにしている。冷蔵庫内の清潔保持、不要なものの廃棄をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路から玄関まではスロープのみなので出入りしやすい。玄関には日中は施錠していないので出入り自由である。玄関周りにはいつも明るくしている。花も植え、緑で柔らかさを出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	若干、フロアは高齢者には暗いような明かりであるが落ち着いた雰囲気になっている。季節の花を絶やさず飾り、インテリアも日本人形等で落ち着きがある。中央にトイレがあって、臭いには注意し、消臭スプレーを活用して、不快な臭いは解除する工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブルで過ごされたり、テレビの前の定位置であったり、自室前の椅子を愛用されたり、それぞれ居場所を作っておられる。		

グループホームはつね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には今まで使っておられた馴染みの家具や物品を持ってきていただくようお願いしている。仏壇やタンス、愛用のミシン等持って来られている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除の祭は、各部屋の窓も全部開け、換気している。日中、窓の開閉はこまめに行なっている。加湿器やエアコンを活用し快適な室温で暮らせるよう配慮している。個別の「暑い」「寒い」にも適宜対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はすべてバリアフリーにしている。トイレと浴室に手すりを付けて安全に使用できるようにしている。手すりは、今後も必要な方に必要な場所に設置していく予定である。狭い空間に椅子が多く置いてあるので危険のようだが、それも伝って歩ける手段になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	あまり死角がなく、見渡せる空間なので利用者の方々も職員の姿が見え安心されている。対面キッチンも功を奏している。建設時、心配した腰板の節目(虫に見える)の混乱もなく、自室やトイレを認識されている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	前庭が自転車置き場になっていて、広く使えるようにはなっていないが、植え物をしたり花火の場所にもなっている。青シソを鉢に植える作業を利用者の方々としたこともある。野菜の成長を楽しみにされている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームはつね

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設10周年を迎え、「個人の思いを大切に」にし、「地域と共に歩む」ホームでありたいと再確認している。ふれあいサロンの充実と発展、更に地域への還元内容をさぐりたい。そして何よりも認知症ケアの発信地として、地域の方々・諸団体等から信頼されるホームを目指したい。はつねの変わらない「アットホームな雰囲気」を大切に受け継いでいきたい。